

# ことばは 楽しい ⑬

世界にはいろいろなことばがあり  
それを使って生活している人たちがいます。  
数多くの魅力あふれることばを育んだ  
風土や文化を紹介しながら  
ことばを学ぶ楽しさを伝えていきます。

教育関係者の方々へ：  
高校生をはじめ若い人たちに  
広くこのシリーズを  
読んでもらいたいと思います。  
ぜひ教室等に掲示してください。

## 広東語

香港在住ジャーナリスト 佐保暢子

食咗飯未呀？（セツジョーファンメイア？） ごはん食べた？  
食咗咯。唔該先。（セツジョーラ。ンゴイシン。） 食べたよ。ありがとう。

### 編集部注

香港の主要言語は広東語である。広東語は漢語方言(北京語、上海語、福建語などが含まれる)の一つで、広州を中心とする中国南方で使用されている。そのほか、シンガポール、マレーシアなどの東南アジアおよび北米に住む華僑には広東語を母語とする人が多い。

「セツジョーファンメイア?(ごはん食べた?)」。お昼時に会おうと、香港の人はこう声をかけます。別に食事に誘っているわけでも、「ちゃんと食べなさい」とおせっかいはやくわけでもありません。これは普通の挨拶のことばです。もちろん返事は簡単。「セツジョーラ。ンゴイシン(食べたよ。ありがとう)」と答えます。もしまだだったら「チョンメイ(まだだよ)」、あるいは「チャウレイロツ(今から食べに行くところ)」と答えればオーケー。ついでに「これからそのワンタンメン屋で一杯食べてくるよ」なんて、食べ物を口にかき込むようなジェスチャーをしてみせると、相手の笑顔がもっとほころびます。たったこれだけの挨拶ですが、なんだかとても

語と同じ。白いお米を食べるのは、「食白飯(セツパフアン)」、「食麵(セツミン)」、「食粥(セツチョウ)」と日本語とは語順が違いますが、漢字にすると意味がすぐに分かるでしょう。

とにかく香港での友だち付き合いはお酒より、食事の方が重要です。通りでしばらくぶりに友だちにぱったり会ったなんてときには、「ホウロイモウギンネイ。ネイホウマ?(久しぶり。元気だった?)」と挨拶したあと、「ダツハンヤムチャーラ(ヒマなときにヤムチャしようね)」とすぐに食べる話になってしまいます。また夕飯を終えて家でのんびりしているときでも、「セツシウイエラ(夜食に行こう)」とお誘いが来ることも珍しくない。それも夜食と言いながら、チャーハンや焼きそばなど夕飯並みの量を平らげてしまうからたまりません。おかげで胃袋は一日二十四時間営業といった状態です。

香港は人口が東京都の半分ほどの小さな都市ですが、世界を代表する国際金融都市です。その活気を支えるのが、通りにぎっしりと並んだ食べ物屋。香港の街はいつも食べ物の匂いや人の熱気でムンムンとむせ返っていて、まるで香港自体が何でも食べてしまう大きな胃袋のようです。

さて、景気が悪くて仕事がなくなり食べるものがない。そういう状況を香港の人々は「食西北風(セツサイパフオン)」と言います。確かにお腹に冷たい西北風を入れても腹の足しにならないどころか、これほど辛いことはありません。やはり生きる基本は「食」。街に食べ物があふれ、みんなの胃袋が満たされていることが大事なのです。「セツジョーラ。ンゴイシン」。この挨拶はまさに香港の活気のパロメーターといえるかもしれません。

佐保暢子(さほのぶこ)  
香港在住ジャーナリスト。東京外国語大学中国語学科卒。北京師範大学中文系修了。雑誌などの執筆のほか、テレビの番組制作なども手掛ける。



(上) 香港の人たちが大好きな軽食スタンド。つみれ団子や揚げ物が並ぶ。(下) 肉屋は店先に肉をぶらりと下げて切り売りする。

元気がわいてくるような気がします。

さすがグルメ天国の香港、挨拶も食べる話かと思われるかもしれませんが、むしろこのことばは相手が元気いっぱいご飯を食べているか、三度の食事を欠くほどお金に困ってはいないかと気遣う気持ちが込められているようです。この一言で相手の健康状態から経済状況まで聞くことができる、なかなかすばらしい挨拶なのです。

広東語の「食べる」は、「食(セツ)」で日本



(左)商売繁盛なのか、笑顔のチャーシュー屋のお兄さん。  
(中央)目立とうとするうちに看板は巨大化してしまった。  
(右)小鳥を連れてお散歩。香港のおいしいちゃんたちの楽しみの一つ。

## 広東語はこんなことば

香港に暮らす大阪人はよく広東語が大阪弁に似ていると言います。言われてみると、確かに広東語には大阪弁のような語尾が豊富にあります。例えば「ハイ(そです)」ということばは、「ハイア(そやる)」「ハイウオ(そやなあ)」「ハイグア(そちやうんか)」となり、そのアクセントもなんだか関西風なんです。ただ、中国語は声調といって文字一つひとつに抑揚がありますが、北京語が四声なのに対して広東語は六声(九声との説もあり)あります。日本語にない発音もあるので、覚えるにはちょっと根気がいるかもしれません。

語順は主語 + 動詞 + 目的語。「私に一杯のお茶をください」を広東語風に解体すると、「ください + 一杯のお茶 + 私」という順序になります。

また広東語は中国語の一方言にあたる話ことばで、正式な書きことばは北京語に近い文語です。広東語をマスターするなら、北京語もいっしょに覚えるつもりで挑むと、文法の基礎をしっかりと学ぶことができます。

## 「ネイホウ」と声をかけてみよう!

香港は日本にとっても近いアジアの都市です。日本で有名な香港人といえば、アグネス・チャンや電波少年のチューヤンをまず思い浮かべるのではないのでしょうか。このほか、死後もなお熱狂的なファンを持つブルース・リー、今やハリウッド俳優として活躍しているジャッキー・チェン、チョウ・コンファなどすばらしい俳優がたくさんいます。一度、彼らが映画のなかで話している広東語に耳をかたむけてみてはどうでしょうか。

最近では時間差なく日本の流行が香港に伝えられるようになってきました。香港の若者もキムタクや反町の話で盛り上がったり、浜崎あゆみや宇多田ヒカルのCDを買ったり、『non・no』を見て最新ファッションを研究したり、プレステのゲーム情報を交換したり……。実は彼らも日本の若者と同じ世界を共有しています。

日本に旅行する香港の若者たちも増えてきました。もし街で彼らを見つけたら「ネイホウ(こんにちや)」と声をかけてみてはどうでしょう? 初めは筆談でも大丈夫。彼らと「朋友(ハンヤウ)」になれば、もっと香港を知ることができますよ。

### 著者のおすすめ

#### 広東語の教材

『日本人のための広東語』I~III 頼玉華編、オイスカ文化中心出版、1994 / 1995

香港在住の日本人が愛用しているテキスト。

『広東語四週間』中島幹起、大学書林、1981

文法が細かく説明されていて、広東語の構造がよく分かる。

『香港広東語会話』千島英一、東方書店、1989

香港人の生活習慣にも触れているので、楽しみながら勉強できる。

『香港電影的広東語』陳敬儀、キネマ旬報社、1995

香港映画好きにはたまらない映画の決めの文句が対訳付きで網羅されている。

『香港に行こう』千島英一、東方書店、1996

著者は香港をよく知る人物なので、香港を知るにはもってこい。

#### 香港の社会や歴史について

『香港・濁水溪』邱永漢、中央公論社、1980

『香港旅の雑学ノート』山口文憲、新潮社、1985

『転がる香港に苔は生えない』星野博美、情報センター出版局、2000

『香港セピア物語』大村真紀、大和書房、1997

### 広東語講座および関連資料の入手先

#### 広東語講座

アジア文化会館

東京都文京区本駒込2-12-13 電話:03-3946-4121

#### アジア図書館(関連資料の閲覧も可)

大阪市淀川区東中島5-18-20 電話:06-6321-1839

#### 書籍・ビデオ等取扱店

アジア映画(香港映画、香港テレビ番組)

東京都千代田区神田神保町2-4 矢野ビル2階 電話:03-3234-2202

内山書店

東京都千代田区神田神保町1-15 電話:03-3294-0671

東方書店

東京都千代田区神田神保町1-3 電話:03-3294-1001

亜東書店名古屋支店

名古屋市中区八事本町100-32八事ビル2階B号室 電話:052-836-2880

チャイナセンター

大阪市天王寺区逢坂2-4-5 電話:06-6779-8732

中国書店

福岡市博多区中呉服町5-23 電話:092-271-3767

#### ホームページ

香港政府観光局

<http://www.hktourismboard.com/japan/index.html>

The 香港

<http://db.soknet.com.hk/thehk2000/eg/cgi-bin/index.idc>